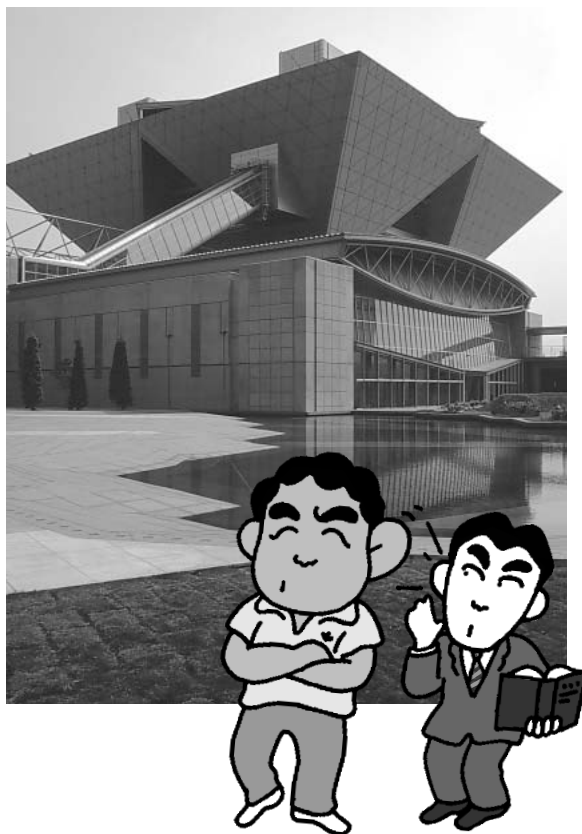


夏場の機械翻訳 チエツクで隊長、 知的労働災害か？ 乱文後遺症で 探検隊の今後は？



第4回 翻訳ソフト編

illustrator : Kaori Takahashi



ネットサーフには英語が不可欠？

むう～ん、夏である。あつい……；；。こんな暑いのに原稿なんか書いてちゃ、頭がゆだってきてノーミソから汗がたらあ～。とても健康的な生活とは言えんぞあ～。こんな時にはアタマの中からノーミソを取り出して、氷水の中でちやぶちやぶ洗って、あースッキリ、なんてことしてみたいものである。

てなことを言っているが、きっとこの号が出るのももう夏も終わり？ 秋風とともにやってくるのは食欲……もモチロンだが、お勉強の季節である（このあたり、アタマが熱いもので連想にかなり無理がある）。

そう。勉強といえば、最近某編集部方面で話題になっているのがEnglish、つまり英語である。なんでも、海外取材から帰るたびに成田の帰国出口で「よおし、ぜったい英語やるぞ」と宣言している某編集長が、「やっぱりインターネットは英語ができなきゃ駄目だ」と観念して、ついに英会話学校に行くというマジ話が出てきたせいら

しい……ま、いったい何度目の話かはおいといてネ。

そう言えば、いつの間にやら本誌では、ネットユーザーのための英作文講座やニューヨーク通信つぱい連載が始まっているではないか（なぜかは知らねど両筆者とも海外在住の女性である！）。こりゃ某編集長のヤマイもかなり重症かも……と考えていたら、そんななか、今回の探検目標として担当編集者M女史から出されたテーマが「インターネットに使える翻訳ソフト」。つまり、英語のウェブページなんぞを簡単に日本語に直してくれるという便利モノである。

企画の動機（編集部内の権力闘争？）がなんとなく見えてくるような気がする。が、それはともかく、私もウンチクこねてナンボの筆者だ。相手にとって不足はない！どこからでもかかってきなさい！（ホントはかなり無謀な気がするが）ともかく今回はそんなワケで、インターネットで使える英日翻訳ソフトを探検だ。

⑨ ウェブのレイアウトを変えずに翻訳してくれるソフトも登場

とは言ったものの、実は私はこの手のものにまったく関心がなかったのである。なぜか？ それは英語がペラペラだからサぁ～ん……てなことはぜ～んぜんなくて、ウェブのページなんて絵で中身が分からなけりゃ意味がないという立場（意味＝図解重視派）なのだ。しかし、探検ターゲットが決まってからあらためて雑誌などをながめてみると、なかなかすごい数のソフトが出ていることに気づいた。

編集部で聞いてみたところ、インターネット対応と名乗るものだけで、その数は十数種類。値段も1万円程度のお手軽なものから10万円もする豪華版まで幅広い。う～む、いつの間にやらこの状態。これもすべてふつーの日本人の英語コンプレックス、インターネットコンプレックスが生み出したブームってやつかぁ？ ったく世の中ってやつは……。

だが考えてみると、「インターネット対応」って何だろう？ ストレートに考えると、英語のファイルを翻訳ソフトに通すと日本語になって出てくる……これが翻訳ソフトでしょ？ というような素朴な疑問を抱きつつ、雑誌の広告を呼んだり、編集部でもらった資料などを見ておったまげた。なんと、今の広告で出ている「インターネット対応」というのはウェブの画面のレイアウトを変えずに、中身の英語をそのまま翻訳して表示してくれるというものなのである。しかも、翻訳機能の中心になる翻訳エンジンだとか辞書も、基本的にはこれまで高価で手が出なかった本格的機械翻訳ソフトと変わらないという。ま、これってモノが売れそうなら価格を下げるっていう、市場の原理が働いてるっていうやつ？

で、従来の翻訳ソフトと違うのは、ウェブで利用することを前提にしているために、

ネットスケープやインターネットエクスプローラみたいなブラウザのインターフェイスをそのまま使って翻訳結果を見ることができるのである。ふむふむ、これはウェブオタクにとってはなかなか便利そう。

さらに、これ以外にもほとんどのソフトには一括翻訳・部分翻訳、分野別の専門辞書、ユーザー辞書登録といったむずかしそうな機能がついているらしい。が、ま、そんなことは使ってるうちに分かってくるだろう。

ということで、とりあえず代表的なインターネット対応英日翻訳ソフト2本を編集部で選んでもらって試してみることにした。

⑨ まずは「LogoVista E to J Internet」をチェック

まずは“インターネット特化版”英日翻訳ソフト「LogoVista E to J Internet」である（マッキントッシュ版、ウィンドウズ版あり）。

デザインいまいちのパッケージの裏に書いてある「特長」を見ると、「インターネット上のホームページ&電子メールの英文を簡単操作で翻訳。高品質を誇るE to Jシリーズ共通の翻訳エンジンを搭載。コストパフォーマンス抜群、うれしい低価格」とある。うむ、たしかに価格は7,980円。ちなみにオリジナルの「LogoVista E to J Pro Ver.3.0」は97,000円という話。げげ、10分の1。こりゃ安いわ。翻訳ソフトと言えば、高価なものとはばかり思い込んでいた私（頭が古いもんだから、つい最近まで電子レンジも高いもんだとばかり思っていた）いったいぜんたいこれはなに？ と要冷却状態の頭がさらに発熱……。

「機能」のところを見ると……

- ・ホームページ全体を翻訳するページ翻訳
- ・ホームページや電子メールの一部を指定して翻訳する部分翻訳



1万円程度から10万円くらいするものまで、翻訳ソフトはよりどりみどり。



ウェブの中で翻訳文が読めるのも、インターネット対応ならではの。



翻訳ソフトには平均7万～16万語の英単語が収められているらしい。



翻訳するには、ホームページを立ち上げたまま、翻訳ソフトのボタンをクリックするだけで、OK。

ディレクター：CD-ROMなどのマルチメディアタイトルを制作するためのソフト。この夏、ディレクター日本語版5.0が発売された。

40マシン：CPUが68040のマシン。

- ・単語を指定し、訳語を表示する辞書引き機能
- ・ヘッダー/リンクタグのみの選択翻訳
- ・E to Jシリーズ共通の一般辞書付き（収録語数は英和約12万語）

……と、「使い分ければなかなか便利そう&手抜きはないぞ」のアピールである。

聞くところによれば、この手のソフトの辞書の登録語数は7万～16万語というから、これはちょうど標準的なサイズのようなのだ。

パッケージを開けてみると、中に入っているのはほとんど文字ばっかの薄いマニュアルとCD-ROMが1枚だけ。ま、値段を考えればしょうがないか……と納得して、早速CD-ROMをセットしてみると、中にディレクターで作られたガイドプログラムが入っている。インストールの前にこれを動かしてみると、ちゃんとグラフィックスを使った解説がある。見てみると、なんか機能はすごく単純である。う～ん、これなら文字オンリー&ペラペラのマニュアルだけでも使いこなせそう。

自信をつけたところでさっそくインストールにかかるが、作業は極めて簡単。インストーラーで収蔵するホルダーを指定すると、「LogoVista Internet」と「LogoVista Dictionary」が組み込まれ、これでおしまいである。

🌀 新聞のヘッドラインニュースを翻訳してみたが……

環境設定の中に「翻訳設定」というのがあり、辞書や翻訳の精度と速度を選ぶ項目があるが、とりあえず初期設定のまま使ってみることにして、いつものようにインターネットに接続し、ブラウザを立ち上げる。

さて、どこをのぞいてみるかな？ と考えると、これが意外にむずかしい。まず、何について書いてあるかぜ～んぜん見当の

つかない英語のページだと、ちゃんと翻訳できているかどうか評価ができない恐れがある。そこで日本語と英語がペアになっているページを探してみることにするが、これが意外となのである。

まず第一に、まともな翻訳がされている保証があって、内容が分かりやすいところはどこ？ しかも、この企画はまともな(?)雑誌記事なんだから勝手に企業のホームページなどを取り上げるわけにはいかない(著作権的問題)、という消去法で絞り込んで、結局、毎日新聞のウェブページから日本語と英語のヘッドラインニュースを読み込んで比較してみることにした。

が、しかあ～し、よくよく中身を見比べてみると、日本語ページと英語ページの内容が違うじゃないか！ これは想像だが、どうも英文ページは日本語の毎日新聞のページを逐一翻訳しているというわけじゃなく、ぜんぜん別のところで作っているようである。う～む、これでは比較のしようがない。そこでとりあえず英文のページを一括翻訳し、次にその中で共通のニュース項目になっている「アトランタ・オリンピック」の部分部分を部分翻訳して比較することにした。

ネットスケープで英語のヘッドラインニュースのページ(<http://www.mainichi.co.jp/headline/headline.html>)を表示し、次にファインダーに戻って「LogoVista Internet」をダブルクリックする(別にネットスケープと同時に立ち上げておいても構わない)。すると画面のはしに小さな5つのボタンの付いたパレットが出てくる。ネットスケープの画面を指定して、次にこのパレットの中の左から2番目の三角のボタンを押す。と、パレット画面の下に赤いバーが出てくる。どうやら、これが翻訳の進行状況を表示するものみたいなんだが、はっきり言って遅い！ ま、私のマッキントッシュはこのご時勢に40マシン(近日中にグレードアップ予定)という劣悪環境なの

でしょうがないのかもしれないが、このスピードでは……。ダイヤルアップだとこの間もインターネット接続料金が課金されるわけで、それを考えると、その辺をソックス引きずって歩いている女の子でなくても、「チヨベリバ」と言いたくなる。

さて、待つことしばらく。出てきた翻訳画面はちゃんとそれなりにオリジナルの画面レイアウトに沿っている。が、問題はその翻訳文章のほう。これはもう……はっきり言って、この暑いのにますます頭の中が大混乱すること間違いなしの文章（いや、文章以前）である。

以下にお楽しみの事例をあげよう。

【LogoVista 訳文：標準タイプ】

カナダは、鼓動して、男たちの400メートルのリレーに勝ちます
合衆国；走者が5日、（それに）なる日本語
男たちの4x400で。

ね？ 最初の文章はまだ分かるけど、後半なんて、なんだかワケが分からなくてしょ？ で、この原文はというと……

【原文】

Canada wins the men's 400-meter relay, beating the United States; Japanese runners come 5th in the men's 4x400.

なのである。これを私なりに翻訳すると……

【探検隊訳文】

カナダ、アメリカ合衆国を破って、男子400メートルリレーに勝利；日本のランナーは男子4x400で5位

……とういことになるはず（私のオリン

ピック観測によれば「4x400」は400メートルを4人でリレーするというのだが、これってオリンピック見てないと、分からないよね）

う～ん、どうやら想像するに、翻訳プログラムが原文の改行位置で勝手に文章を区切ってしまったせいらしい。

ここで考えられる解決策は2つ。まず最初は、ブラウザに出ているコマ切れの文章の改行位置を調節してやる方法。ただ、これってブラウザの中では改行を取れないので、結局、エディターなんかで文章を開くことになる（「LogoVista Internet」はネットスケープなどだけでなく、エディターなどに表示された文章も翻訳できる）。しかし、いちいちこういうことをやらなきゃいけないようだと実用性には乏しいと言うしかない。

もう1つは「環境設定」の翻訳設定を「より正確に」に変更することだが、これはこれで一層時間がかかってしまうことが容易に想像されるわけで……しかし、乗りかかった舟である。ちょっと部分翻訳のところを「より正確に」と設定してやってみると……。

【LogoVista 訳文：より正確にタイプ】

カナダは、合衆国を続けざまに打って、男たちの400メートルのリレーに勝ちます；日本の走者が男たちの4x400で5日、来ます。

ううむ、ツライ。しかも10秒はかかっている気がする……頭が熱い。なんとなくこれは新聞の見出し特有の問題のような気もするが、これだけ時間がかかるようだと長文の英語を翻訳してみる気力もなくなるしね～。



今度は「NetSurfer/ej Ver.2」を使ってみた

こういう時は気分転換が一番……ってプ



「カナダが鼓動して」「男たちの4x400」？ 出てきた訳文って、なんかへんだぞ。



どこで英文が区切られるかで、翻訳のできが左右される。



翻訳の精度は落ちるか処理の速いほうを選ぶか、時間はかかるが正確なほうにするか？



翻訳に時間がかかるのは、ちとツライ？

翻訳ソフトを試してみよう

今回紹介している「LogoVista E to J Internet」のシリーズ、「LogoVista E to J Pro」の体験版が付録CD-ROMに収録されています。

収録先：

MAC LogoVista E to J Pro Demo
WIN LOGOVIST



ールにでも行ければいいんだけど、もう1つの翻訳ソフトが残ってる。アタマを切り替えるために、インターネット対応英日機械翻訳ソフト「NetSurfer/ej Ver.2」のウィンドウズ95版を使ってみることにする（マッキントッシュ版もあり）。テストマシンは、これもまた一世代前の486マシン（とほほ、どうしてオレって古いマシンばっか持っているんだろう？）なので、あらかじめ言っておきますが、翻訳速度には自信ありませ～ん。

さて「NetSurfer/ej Ver.2」だが、こちらは基本辞書登録語数が約10万。お値段は29,800円と、先ほどの「LogoVista E to J Internet」に比べ若干高い。さて、その分翻訳の精度は……とインストールにかかる。こちらにもインストーラーが付いているのでソフトの組み込みは簡単だ。

先ほどと同様、ネットスケープで毎日新聞の英語ヘッドラインニュースのページを表示しておき、「NetSurfer/ej Ver.2」を立ち上げると、こちらは「翻訳」「対訳」「辞書」という3つのボタンの付いたパレットが登場する。

環境設定のほうも「ページ翻訳」「対訳翻訳」の設定があり、「翻訳モード」にも「長い文章を節・句に区切って訳す」「大文字・小文字を区別しないで訳す」「ですます調で訳す」など、細かい設定があるようだが、今回は初期設定のままだ。

では、先ほどのオリンピックのニュースをおまかせモード（意味＝基本機能）で翻訳してみよう。「翻訳」ボタンを押すと、「ネットサーファー」という名前のもじりが、画面にヤシの木のある海岸の景色のボタンが登場し、時間の経過を景色の移り変わりで表示してくれる（赤いバーもあるけど）。ま、たしかに「LogoVista」の赤いバーだけよりはオシャレではあるが、一画面を翻訳するのに太陽が二度も三度も昇って沈むなんて光景は見たくないぞお～！ で、2日（？）かかって翻訳した結果が……

【NetSurfer/ej Ver.2 訳文】

カナダが、その男性の400メートルのリレー（打つ）に勝つ
アメリカ合衆国：日本のランナーが、5番目に、来る
男子4×400の中では。

……である。

ほほお。前に原文を見ているせいとか、なんだかこっちのほうがこなれているような気がするのはいのせい？ それに心持ち翻訳のスピードも速いような……（これはマシンのせい？ それともヤシの木のサブプリミナル？）。しかし、なんだかこいつも改行位置で苦労してるみたいだな～。

さて「NetSurfer/ej Ver.2」にも、当然先ほどの「LogoVista」の「部分翻訳」にあたる機能がある。しかもヘルプファイルを見る限り、対応する英文と訳文の単語のペアを反転表示したり（訳語対応）、訳語の一覧を表示して変更する（訳語変更）などの機能もあるようだ。残念ながら、今回はあくまでも「お気楽に使える“おまかせ”モード」の探検を中心にしたので追究できなかったが、これは使い込むとかなり可能性がありそう。しかし実際は、使い込んで辞書に単語を登録したりしてプログラムを賢くする時間があつたら、その場で単語を引いて、自分で覚えてしまうほうが速いんじゃないかという気もするが……。

◎ 翻訳ソフトはオフラインで使ったほうがベター

十数種類のインターネット対応英日翻訳ソフトの中から、今回わずか2つだけだがテストしてみて分かったのは、下手に文章にしてくれないほうがよい、単語の意味だけをバラバラ並べてくれるモードのほうがいいんじゃないかということ。ま、私のようなロジカルな人間って、ついつい文章を読み

解こうとする自動インテリモードが動いてしまうわけで、そんな人がめっちゃくちゃな文章を読まされると、それだけで頭がパッパラパー状態。社会復帰するまでに時間がかかるです（あ、文章がどんどんヒドくなっているような気がする……これって知的労働災害かもしれない）。

さらに、もし単語だけ拾うアバウトモードで翻訳ソフトを利用できるようになった場合、やっぱり1つの単語について1つの意味しか表示できないものでじゃなく、複数の訳語から想像上の文脈に合わせた言葉を選択できるものを選びたい。う～ん、これは、もし真剣に翻訳ソフトを使おうと考えた場合、ある程度値段が高くて必須の条件になるのではないかという気がする。

次に、これってダイアルアップ接続の場合、まず、オンライン状態で使うのはやめたほうがよいということである。要は、スピードが速いと翻訳が粗くなる。正確さを求めれば結構時間がかかる……となると、やっぱり利用前に自衛措置を講じるべきっ

てことですね。

では、どうすればいいのか？ 毎月ご愛読の皆様なら当然ご推察のとおり、あれと組み合わせて使うですよ。ここ2か月、この連載で紹介してきたオフラインウェブブラウザ「Perman Surfer 波乗野郎」とか「ネットスケープ・ヒストリー」ね。少なくともコストコンシャス（選択訳語＝ケチ）な読者なら、まずこういう部分でアタマを使っていたきたい、と。

ということで、今回の探検隊、かなり苦労して頭に汗がいちゃったが、やっぱり、鍛えた人間の脳に優るものはないことを実感する結果となった。で結論は、「翻訳ソフト。使うなら、頭はやっぱりアバウトモード」ということにしておきたい。では来月はマッチョ・ベターのココロだ（翻訳不能）。



翻訳ソフトを使用するときは、ホームページ自動収集ツールを併用するとグッド。

Perman Surfer 波乗野郎：あらかじめ指定しておいたURLを巡回し、ファイルをとってきてくれる自動収集ソフト。本誌8月号で紹介。付録CD-ROMに収録。

ネットスケープ・ヒストリー：本誌9月号で紹介した自動収集ツール。マッキントッシュ版のみ。入手先は、<http://ftp.iij.ad.jp/pub/info-mac/comm/inet/web/ntscp/netscape-history-201.hqx/>。



今回紹介した翻訳ソフト



LogoVista E to J Internet

マッキントッシュ版
(Macintosh, Power Macintosh)
対応OS:漢字Talk7.1以上
登録単語数:約12万語
使用メモリー:7Mバイト以上(Macintosh)
9Mバイト以上(Power Macintosh)
ハードディスク空き容量:25Mバイト以上

ウィンドウズ版
対応OS:ウィンドウズ95、ウィンドウズNT3.5
登録単語数:約12万語
使用メモリー:10Mバイト以上
ハードディスク空き容量:27Mバイト以上

価格:7,980円
発売元:(株)カテナ
問い合わせ先:0423-38-1118
製品情報:
<http://www.cet.co.jp/logovista/>



NetSurfer/ej Ver.2

マッキントッシュ版
(Macintosh, Power Macintosh)
対応OS:漢字Talk7.1以上
登録単語数:約10万語
使用メモリー:11Mバイト以上(Macintosh)
14Mバイト以上(Power Macintosh)
ハードディスク空き容量:25Mバイト以上

ウィンドウズ版
対応OS:ウィンドウズ3.1、ウィンドウズ95
登録単語数:約10万語
使用メモリー:11Mバイト以上
ハードディスク空き容量:25Mバイト以上

価格:29,800円(Netscape Navigator付き)
24,800円(Netscape Navigatorなし)
発売元:(株)ノヴァ
問い合わせ先:03-5287-7570
製品情報:
<http://www.nova.co.jp/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp